

「タイ人のよき兄貴・姉御に」

タイ国日本人会会長 大橋寅治郎氏に聞く

大正2年（1913年）9月に設立されたタイ国日本人会は今年、設立100周年を迎える。海外最大規模の同日本人会は当初、在タイ日本人の互助組織として活動していたが、時代とともにその役割にも変化が生じている。タイ国日本人会は今後、どう歩むのか、また、歩むべきなのか。第50代会長大橋寅治郎氏に話を聞いた。

（聞き手・構成 倉林義仁記者）



「タイ人に嫌がられる振る舞いはしないでほしい」と呼びかける大橋会長

「創立100周年を迎える今年、タイ国日本人会100年史を編纂する計画です。そのため、小野雅司事務部長（前会長）を委員長とする『100年史編纂委員会』を立ち上げました。現在、過去の資料、写真を集めるとともに、これまでの歴史

を回顧していただける永住者・長期滞在者を探しています。これは反省事項でもあるのですが、100年の通史的記録がまとまらないため、断片的記録を収集し、それをまとめる作業で苦労しています。そのため、今後、記録をきちんと整理しておく必要性を再認識することになっていきます。

また、9月6日にはインペリアルクイーンズパークホテルで100周年記念式典を行います。プログラムは現在、調整中です。在タイ日本国大使館への在留届提出数は年々増

えているのですが、日本人会の会員数はこの3、4年、横ばいであり、会員増強が最大の課題となっています。昨年9月、日本人会に求めるものを会員に問うアンケートを実施しました。現在、いただいた要求に対する具体的な対応策を理事会で検討しています。今年4月の定例総会までにまとめる方向で進めています」

「不幸な自然災害を通じて、タイと日本は助け合うなか、絆を強めていきます。日タイのこの絆をさらに強めるために、日本人会で何ができるとお考えですか。」

「私は在タイ47年になりますが、まず、日タイ関係が良好であることの背景としては、タイの王室と日本の皇室の緊密な関係があると思います。プミポン国王陛下にはいつも心から願っておりま

す。そして、尖閣諸島の領有権を巡る日中のトラブルで、大規模な排日デモが起きているのを目の当たりにして、タイで平穏に生活できることを、タイ人に対して感謝したい

の思いがいつそう強くなっています。今年の日タイ修好126年となりますが、この長い歴史の中で日タイ関係の「つま

づき」といえるのは、終戦直後の約1年、パトゥムタニ県の日本村で、帰国せずタイで生活することを選んだ日本人が1年ほど抑留されたことだけです。ただ、その非常事態下でもタイ人はナムチャイ（慈悲心）をもって接してくれたとい

います。抑留体験者は「物資、住居では苦労したが、タイ人の親切に支えられて生活していたため、心は豊かに暮らせた、コーラスなどのクラブ活動もできた」と話していました。マレーシアやフィリピンでは終戦直後、日本人が深刻な迫害を受けるケースもあつたようですが、タイでは日タイ関係の「汚点」ともいえる1年の抑留期間中も、タイ人に対してうらみを抱いていた人はいなかった、との話も聞いています。

日本とタイの絆を深める活動はすでに個人ベールで進んでいます。日本人会が開催しているもちつき大会、文化祭、チャリティバザーでは、会員らがタイ人にも声をかけているため、近年タイ人参加者が増えています。

また、日本人会本館に併設する日本食レストランもタイ人が比較的安い料金で日本食に触れる機会を増やすことに貢献していると思います。理事会では食堂ではなく、サロンにしたかどうかとする案も出ていますが、日タイ交流の場として今後も存続していきたいというのが私の考えです」

「日本人会の本館・別館ですが、当面は現状維持でしょうか。また、日本人会の魅力を増すためには、何をすべきとお考えですか。」

「当面、サトン通りの本館と、スクムピット地区の別館の統合はありませ

ん。ただ、別館は改装を希望するオーナーから、今年半ばに1階に移転してほしい、との打診が入っており、現在、検討中です。別館の契約はあと3年残っているため、移転費



タイ国日本人会ホームページ

用はオーナー負担となりますが、これを契機として、再び統合問題を検討することになるかもしれません。

数年前、会館の移転・統合でのアンケートを行った際、移転・統合支持者が不支持者を上回りましたが、規定の有効投票数を下回ったことから、廃案となりました。

ただ、先に申し上げました通り、日本人会会員が伸び悩むなか、日本人会がなくても生活に影響しない在タイ日本人をひきつけるには、ロケーションの魅力が非常に重要と考えます。気軽に立ち寄れるところに会館を構えることで、利便性が著しく向上し、活動の幅も広がります。BTSスカイトレインもしくはバンコク地下鉄の駅から徒歩範囲であれば、既存のクラブ活動にとどまらない、さまざまな活動を展開しやすくなるのは間違いありません。そして、タイ人との共同プログラムも容易となり、日タイの絆強化に日本人会が大きく貢献できることにもなります。

創立100周年を迎える今年、この点もじっくりと協議するのになさわしい年と考えます」

「日本人会員に対するメッセージをお願いします。」

「私が在タイの日本人に一番お願いしたいのは、先達から築いてきた『タイ人にとってのよき兄貴、姉貴』という日本人像を壊さないように、タイで生活してほしいということです。タイ人に嫌がられる振る舞いをしないよう心がけてタイ人との交流を深めてください。また、タイ国日本人会をより魅力なものとするため、皆様のご意見・ご要望をお気軽に事務局にお寄せください。理事、事務局員一同、お待ちしております」



日タイの絆を深めた「ありがとう、がんばろう 日本・タイ」キャンペーン